

# 稲作・畑作

# 営農情報

## 白神ねぎ

### ○定植作業について 【定植適期について】

チェーンポット育苗

### ◎定植苗の姿

- ・草丈：17～20cm
- ・太さ：3～4mm
- ・葉枚数：2.0～2.5葉

### ◎苗が伸びすぎた場合の剪葉方法

伸びすぎた葉を15～17cmの長さにカット

例) 1回目 本葉1.5葉期

2回目 定植5日前くらい(本葉2.5葉)

※剪葉は、完全展開している葉を切り、伸長中の新葉は切らないこと。  
剪葉した葉は、育苗箱内に残らないようにする。

### 【定植後の管理ポイント】

生育・活着を促進するため、定植後に不織布(バスライト等)のベタ張りをして保温することで、低温や降霜を回避することができます。融雪も早いので、病害虫の発生も早まることが考えられるので、定植時の灌注処理を必ず行いましょう。

## 白神山うど

### ○種株の準備

- ・株分けは萌芽が始まる前までに行い、大きく充実した芽が1芽になるよう株分けをしましょう。
- ・健全な株を種株に利用し、腐敗している株は使用しないでください。
- ・根の長さは15～20cm前後になるよう切断し、細かい根や根の先端部分は腐敗しやすいので取り除いてください。

### ○種株の植え付け

- ・圃場はできる限り連作を避け、排水の良い圃場に

植え付けましょう。

- ・植え付け時期は霜害防止のため、4月中旬～5月上旬に植え付けをおこなってください。(晩霜の約1ヶ月前)
- ・畦間130～150cm、株間50～60cmの1条植えで、できるだけ芽を上にして植え付け、覆土は5～10cmとしてください。
- ・紫芽の白・東武鯉玉は密植とする。  
(約1,200～1,300株/10a)
- ・群豊白・愛知坊主は疎植とする。  
(約1,000～1,100株/10a)
- ・極端な深植えはのぼり芽の要因となるので注意しましょう。

## 白神きゃべつ

### ○作業の注意点について

1. 128穴トレイ苗は本葉2葉期頃に肥料がきれます。水20ℓに液肥50mlで40枚(400倍)
2. 育苗期はハウス内温度を20℃以上にしないうにしてください。
3. 育苗期にべと病予防をする。水20ℓにダコニール20mlで40枚(1,000倍)
4. 灌水は朝に行ってください。
5. 定植1週間前には苗を外気に慣らし、本葉3枚～3.5枚頃が定植適期です。

6. 定植直前に、スタークル顆粒水和を苗に散布します。残効があるため、省力化となります。
7. 定植2週間前までは、堆肥・土壤改良剤を、定植1週間前までは基肥を散布します。生育期に高温乾燥被害を受けるとカルシウム欠乏による障害を受けるため、カルシウム剤の施用を薦めます。耕起はできる限り条件の良い状態の時にいきましょう。輪作しても根こぶ病が発生する場合がありますため、気になる方はネビジンやオラクルを使用してください。
8. 定植は温暖な日に行い、極端な深植えは避けましょう。

## アスパラガス

### ○萌芽への準備について

露地アスパラガスの萌芽が始まってくるので支柱を立てたり、支柱を直したりしておきましょう。また、追肥として窒素成分で1反歩あたり2～4kgの散布を行いましょう。S555で15kg～20kgです。

## 健苗育成で活着、初期生育の確保を!!

### 1. 出芽・育苗期間の管理

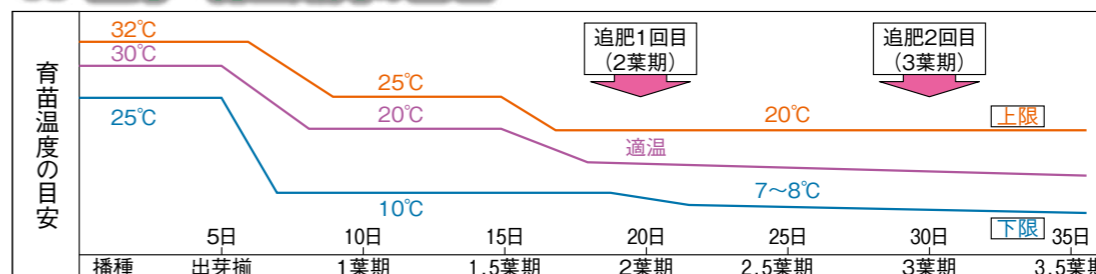
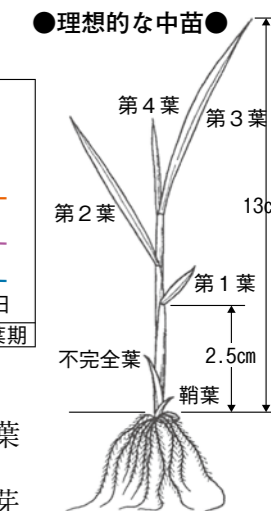


図 育苗温度の目安



#### ① 温度の管理

- 出芽長は0.5cm(中苗の場合)を目標とします。出芽長を伸ばしすぎると出芽が遅れやすくなるので注意が必要です。
- 細菌病等の助長を防ぐため、出芽までの温度は32℃を超えないようにし、出芽後の再被覆は行わないでください。
- 2葉期頃までは、最高気温25℃以下、最低気温5℃以上を保ちます。2.5葉期を過ぎたら、特に寒い日でもない限りハウスを開放し徐々に外気温に慣らしてください。

#### ② 水の管理

- かん水は早朝を基本とし、遅くとも午前中に行ってください。かん水は十分量行き、回数はできるだけ少なくしてください。

#### ③ 育苗期の追肥

- 苗の窒素濃度は移植後の活着力に影響を与えます。本葉2葉期と3葉期にそれぞれ、窒素成分で箱あたり1g相当を施用します。追肥後は、散水して葉身に付着した肥料を洗い流し、肥料焼けを防ぎます。

	1箱あたり	100箱あたり
かん水量	500cc	50リットル
肥料		
硫	5g	500g
安		
液肥2号	10cc	1リットル

※育苗ロング肥料を使用した場合は、追肥は不要です。

### 2. 苗立枯病の防除対策

- 床土混和や播種時に防除薬剤を使用しなかった場合は、発芽後(発病前)にタチガレエースM液剤、または発芽後から緑化期にランマンフロアブルをかん注します。
- 苗立枯病は数種あり、種類によって防除薬剤が違うため注意してください。
- 高温性の病害であるリゾープス菌に対しては、発芽後の薬剤防除は効果が劣るので、播種後は耕種的防除(適切な温度管理)に努めてください。

### 3. 育苗期いもち病対策

- いもち病の発生は、育苗施設からの発病・感染苗の本田への持ち込みが主要因です。  
**育苗施設内および近隣の稲わら・籾殻を撤去し、育苗期防除と適切な葉いもち防除を確実に行うことで、いもち病の被害を未然に防ぐことができます。**

【育苗期いもち病防除】次のいずれかで防除を行う

薬剤名	処理時期	希釈倍数・散布量
ベンレート水和剤*	播種時～播種7日後頃(かん注)	500倍 500ml/箱 1,000倍 1,000ml/箱
ビームゾル	緑化始期(かん注)	500倍 500ml/箱

※ベンレート水和剤の播種時処理は、生物農薬(タフブロックやエコホープDJ)の防除効果を低下させるため、体系処理は行わない。

### 苗の適正管理に向けて苗代巡回を実施します。

組合員の方からの相談や管理指導のため、苗代巡回を実施します。「豊作の手始めは、まず苗づくり」からなので、きめ細やかな管理で健苗育成に努めましょう。

※各地区における集落ごとの巡回時間・集合場所については、外務で配られます資料を参照してください

### 開催日時

- 4月21日(水) 能代地区
- 4月22日(木) 能代地区
- 4月23日(金) 能代地区
- 4月26日(月) ニツ井地区
- 4月27日(火) ニツ井地区

※藤里地区については、日程が決まり次第、書面にて通知申し上げます。